

地域社会への貢献

基本的な考え方

ミウラグループでは、世界が達成を目指すSDGs(持続可能な開発目標)を100年企業に向けた目標の一つとして捉え、CSR活動を積極的に推進しています。ミウラグループが事業活動を行っている国内外の各地域においても、コミュニティの持続的な発展や豊かな社会の実現を目指し、SDGsの視点を考慮した教育支援、環境保全、地域活動への協力など、さまざまな社会貢献・地域貢献の取り組みを行っています。

都市間連携事業への参画

環境省が主催する「令和3年度脱炭素社会実現のための都市間連携事業」に、ミウラが参画している「川崎市・ジャカルタ特別州における脱炭素社会の実現を目指したグリーンイノベーション推進事業」が採択されました。当社の蒸気駆動エアコンプレッサと高効率ボイラを組み合わせて現地の食品工場に導入し、産業セクターにおけるJCM*案件形成調査を実施し、さらなる省エネルギー化を目指します。コロナ禍で移動に制限が

ありますが、ミウラグループの現地法人であるミウラインドネシアを活用し、調査を進める予定です。

※JCM (Joint Crediting Mechanism): 二国間クレジット制度

詳細は環境省のウェブサイトをご覧ください。
<https://www.env.go.jp/press/109542.html>

愛媛大学の寄附講座

1999年から愛媛大学に寄附講座として「環境産業科学講座」を開設しています。また、2002年11月には、愛媛大学農学部構内に愛媛大学環境産業研究施設「三浦記念館」を建築し、寄贈しました。同施設では、環境にかかわる分析・対策技術の研究開発と教育を通して、地球環境の保全や循環型社会の構築、人材育成に貢献することを目指しています。具体的には食品や水、土壌などに含まれるPCBや残留農薬などの化学物質の新たな分析技術、室内環境のモニタリング技術などの研究開発に産官学連携で取り組んでいます。



三浦記念館

ミウラート・ヴィレッジ

ミウラグループでは、文化・芸術にかかわる活動に積極的に協力しています。愛媛県松山市の本社地区には「ミウラート・ヴィレッジ」があり、従業員や地域の方々にさまざまな美術品を鑑賞して楽しんでいただくという創業者三浦保の強い意志で建設しました。2021年3月期は、新型コロナウイルス感染症流行の影響で臨時休館、会期延期などの活動自粛を余儀なくされましたが、そのような状況下でも、三浦保とご縁のあった「小泉政孝展」や収蔵品を紹介する「M.コレクション展」などの開催、毎年恒例の「えひめの工芸作家展」では、コロナ禍でもお楽しみいただけるよう内容を熟考して開催しました。今後も、積極的に本活動を行っていきます。



ミウラート・ヴィレッジ

三浦教育振興財団

「三浦教育振興財団」は、ミウラグループの創業者である三浦保が「優れた才能と自ら学ぶ意欲を持ちながら、経済的理由により就学が困難な愛媛県在住の学生、生徒」に対し、奨学金給付事業を行っている公益財団法人です。社会教育の一環として、国内外研修、社会人交流も行っ

ており、これらを通じて社会に有用な人材を育成し、地域社会、国際社会に貢献したいという想いから設立しました。30周年を迎えた2020年までに、当法人で奨学金給付を受けた学生生徒数は延べ2,000人を超えています。